

別紙様式 1

病床機能分化・連携促進基盤整備事業費補助金 事業計画書

補助事業実施年度	R5	<b>R6</b>	R7	R8	※該当する年度に○をしてください。
----------	----	-----------	----	----	-------------------

※R6年度以降の内容については、記載できる範囲で記載してください。

※R6年度の補助申請を計画している場合については、期限まで必ず本計画書を提出してください。

期限まで提出がない場合はR6年度の補助対象とはなりませんので留意してください。

病院名	医療法人ケイ・アイ オホーツク海病院		
住所	北海道北見市端野町二区793番地1		
病床数	100床 【内訳：一般病床 床、療養病床100床、精神病床 床、感染症 床】		
担当部署	管理部	電話	0157-67-6000
担当者職・氏名		e-mail	

1 病床機能の転換計画（急性期⇒回復期、急性期⇒慢性期、慢性期⇒回復期）

(1) 急性期病床	___床のうち___床を	回復期病床へ転換
[① ]		[① ]
(2) 急性期病床	___床のうち___床を	慢性期病床へ転換
[① ]		[① ]
(3) 慢性期病床	100床のうち50床を	回復期病床へ転換
[①療養病床入院基本料2 ]		[①回復期リハ病棟入院基本料3 ]

※(1)～(3)はいずれかの事業実施、併用実施ともに可能です。  
 ※[① ]内は算定する(予定)の入院基本料・特定入院料を記入して下さい。  
 【例】(1) 急性期病床 100床のうち 15床を 回復期病床 へ転換  
 [①急性期一般入院基本料1] (総数) (転換数) [①回復期リハ病棟入院料2]

2 病床のダウンサイズに伴う医療施設等への転換計画

(1) 一般病床	___床のうち___床を整理し、( )を整備
[① ]	[② ]
(2) 医療療養病床	___床のうち___床を整理し、( )を整備
[① ]	[② ]

※(1)、(2)のいずれかの事業実施、併用実施ともに可能です。  
 ※[① ]内は現在算定している入院基本料・特定入院料を記入して下さい。  
 ※[② ]内は、整備する医療施設等の施設種別などを記入して下さい。  
 【例】(1) 一般病床 50床のうち 20床を整理し、(医療施設等)を整備  
 [①急性期一般入院基本料1] (総数) (転換数) [②訪問看護ステーション]  
 (1) 一般病床 50床のうち 10床を整理し(機能訓練室)を整備  
 [①急性期一般入院基本料1] (総数) (転換数) [② ]  
 (2) 医療療養病床 100床のうち 15床を整理し、(医療施設等)を整備  
 [①療養病棟入院基本料1] (総数) (転換数) [②診療所 ]

1、2ともに以下の病床機能の変動をご記入ください。

現在の病床機能(計画提出時)			転換後の病床機能				参考(※)	
病床機能	入院基本料 特定入院料	病床数	病床機能	入院基本料 特定入院料	病床数	備考	直近の圏域 の病床数	2025年 圏域 必要病床数
高度急性期			高度急性期				341	275
急性期			急性期				1109	790
回復期			回復期	50	50		198	744
慢性期	100	100	慢性期	50	50		703	641
非稼働			非稼働				161	
計	—		計	—		—	2512	2450

※各地域医療構想調整会議所管保健所記載(直近の圏域の病床数は、直近の病床機能報告の病床数を記載してください。)

3 建設工事について

実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
事業種別	<input type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増改築 <input checked="" type="checkbox"/> 改修
事業期間	着工：令和6年 6月 1日 ~ 竣工：令和6年 8月 1日

※実施する場合、別紙様式2も併せて提出して下さい。

4 機器購入について

実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
事業実施時期	令和6年 9月頃

※実施する場合、別紙様式3も併せて提出して下さい。

5 事業の必要性

地域の回復期病床の不足が背景にあり、当院は医療療養病床でありながら、入院患者の80%はリハビリが目的で他医療機関より転院して来ています。それに伴いリハスタッフの質・量とも充実させてはいますが、療養病床におけるリハ期限（起算日が発症日、手術日）の制限等があり、すべての患者に十分なリハビリを提供しているとは言い難い状況にあります。充実しているリハスタッフを生かし、地域の課題である回復期病床の不足を解消し、退院後のアフターケア（訪問リハ等）を含んだトータルケアを実現するため回復期リハ病棟への転換が必須という結論になりました。なお、看護スタッフ数の問題があり、当初は50床の転換でスタートしますが、将来的には残りの慢性期病床の回復期への転換も進めていきます。

6 その他

当該施設に係る過去の施設整備補助の有無	有 ・ 無	補助年度	補助金額	補助面積	補助事業名
今回の整備に伴う財産処分の有無		有 ・ 無			